

コース	B コース
プログラム	ド・モントフォート大学 Pre-sessional English courses
渡航国	イギリス
渡航期間	8 週間
所属学部	国際商学部国際商学科

出国する前は初めての海外でとても不安だった。8 週間(2 ヶ月)という長い期間で本当にやっていけるか不安だったが行った感想としてはあっという間でもっと長く滞在したいと思える素晴らしい短期留学だった。

まず、羽田空港からトルコのイスタンブールで乗り換えたが、飛行での車中泊はかなり体力的にしんどく、なんとかたどり着いて手続きをしたという感じだった。1 人であればかなり難しかったと思う。共に行った日本人の友達たちと協力しながら、なんとかロンドンヒースロー空港まで到着した。ヒースロー空港では、事前に WhatsApp で連絡を取っていたタクシー会社の男性が待っていてくださって、レスターまで 2 時間ほどで到着した。夕方か昼ごろの到着だったが疲れていたのですぐに寝た。イギリスは日照時間がとても長く 21 時くらいまで日の入りは起きなかった。時差ボケもそれほど気にすることなく次の日から順調に 1 日を進めることができた。寮では自炊であることは知っていたが何も揃っていなくて自分達で買わなければいけなかった。枕、シーツすらなくて何もかも日用品を買い揃えなければいけないという形だった。またコインランドリー制で共にいた 2 人の男子といっしょに洗うことにして節約してきた。これらのように事前に聞いていなかった情報や予想との違いが多かったため、もう少し詳しく細かく寮について説明しておいてほしかった。

そして、ついに学校が始まった。20 人ほどのクラスでタイ、台湾、日本、イラン、サウジアラビアでクラスは構成されていた。ほとんどはタイ、日本だった。現地の先生もわかりやすく授業はとても楽しかった。ただ単に英語を教えるだけでなくその先を目指していくようなレポートの書き方や正しい文献の選び方などを教わった。クラスの人とはすぐに仲良くなり、タイ、台湾の友達とは年齢も近く、寮も近かったので、かなりの頻度で共に料理をしたり、パーティーをした。これが最高の思い出の一つである。友達の誕生日を祝ったり、みんなでオールしたり歌ったり、本当に絆が深まり楽しかった。

1 ヶ月ほど経った時クラスのみみんなとロンドン旅行に行った。世界有数の発展都市であるため、感動した。憧れの地であったため、さまざまな映画のロケ地であるところを訪れたり、有名観光所を堪能した。8 月末には日本人だけでスコットランドのエディンバラ旅行に行っ

た。まさに異世界で、レスターやロンドンとは違う雰囲気には驚いた。

基本、クラスの人と話すときは英語を使っており、お互いレベルが同じくらいだったので会話のレベルの差などはなかった。ただし、アクセントが強い国の人たちがいたりしたので、そこは難点だった。毎週月曜日に、学校の近くの教会で留学生を向かい入れてトークするイベントがあった。そこがネイティブの人たちと交流する最大の良い機会だった。そこで仲良くなった教会の方たちに何度か公園に連れて行ってもらったり現地料理を家でご馳走になったりした。本当に貴重な経験だった。

全体を通して、とてもいい 2 ヶ月で最高の夏休みだったと思う。英語にさらに興味を持ったし、イギリスという国がとても好きになった。また日本を愛してくれている人が世界にたくさんいることを驚くと共に誇りに思った。世界中の人々と交流することは大切だと再認識した。友達と別れ、イギリスを離れるのがとても辛かったが、いずれまたどこかで会いたいと思う。友情、勉強、観光などとても貴重な経験ができた。本当に楽しかった。

コース	B コース
プログラム	ド・モントフォート大学 Pre-sessional English courses
渡航国	イギリス
渡航期間	8 週間
所属学部	国際教養学部

◇ なぜ留学に行こうと思ったのか

留学に行きたいという思いは高校生の頃からあって、その頃はただ外国への憧れがあっただけだったが、大学生になり本格的に留学を考えるようになって、語学力の向上だけでなくこれからの人生に活かせるひとつの大切な経験として留学を捉えるようになり、実際に外国に行かないと分からないことを知りたくなったので、2年生の時間に余裕がある夏休みで挑戦しようとした。

◇ なぜこのプログラムを選んだのか

交換留学をするほどの時間もお金もないため、2Qの短い期間はとても適していた。イギリスを選んだのは、西洋史を学んでいることもあってヨーロッパに興味があり、せっかく留学するならヨーロッパで英語を学びたいと思ったためだ。イギリスだと日本人が少ないというのを聞いて、そこも魅力だった。また、語学研修以外のプログラムもあったが、私がまず伸ばしたかったのは英語のスピーキング力だったので、2ヶ月の語学研修を選んだ。

◇ 留学先での学習内容

授業は、前半一ヶ月は午前中二時間、日によって昼休憩のあと午後に一時間あり、後半一ヶ月は午前から午後にかけて三時間の授業があった。オリジナルのテキストに沿ってSDGsについて学びながら、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキングの4つの力を伸ばした。毎日予習の課題があって、1時間ほどの動画を見ながらテキストを進めるかたちだった。授業ではその予習の答え合わせとグループ内でのディスカッションを主に行った。最初の一ヶ月はグループが変わることはあまりなかったが、後半一ヶ月はほとんど毎日グループが変わったため、より会話力の向上に繋がったと感じる。定期的に最終テストに向けた模擬試験があり、そこで自分の力を確かめることができた。また、コースの終わりにはエッセイの提出と、プレゼンの発表があり、その準備はとても大変だった。しかし、日本での大学生活に活かせることを多く学ぶことができたため、とても良い経験だった。先生も優しい方が多く、日本語訛りの英語でも一生懸命聞き取ろうとしてくれ、さらにその発音や、言い回しなどを細かく指導していただいたので、授業以外の場でも英語力を上げることができた。

◇ 留学先での生活

日本では実家暮らしのため、家族と離れて生活することが初めてで、不安が多かったが、寮の同じフロアには他の横市の生徒がいたので、とても心強かった。寮だったので自炊をしなければいけなかったが、日本から調味料を持ってきて、現地で鍋などの調理器具や、食器などを買い、毎日スーパーに行って料理をしていた。外食をすることも多かったが、やはり物価が高いので、友達と一緒になるべく自炊をするようにこころがけた。イギリスの食文化は日本とは異なっていて、味が合わないことがほとんどだったので、アジアンスーパーに行って日本の調味料を買ったり、日本料理屋さんに行ったりしてご飯を食べていた。イギリスの夏の気候はとても涼しくて、最高気温 21 度が普通だったので、上着が必要なくらい寒いときが多かった。また、イギリスにいる人はみんな優しく、困っているときに助けてくれる方がたくさんいた。私が日本人だと分かると日本語で声をかけてくれる方もいて、そこからお友達になる人もいた。他にも、大学のお話会に参加して、現地のお友達を作ったりした。

◇ 留学での思い出

思い出として残っているのは、タイ人のお友達とロンドンに行ったことと、日本人でスコットランドに旅行に行ったことだ。クラスメートのタイ人の方達とお友達になって、一緒にロンドン旅行に二泊三日で行き、ナショナルミュージアムや、ビッグベン、バッキンガム宮殿など様々な場所に行った。スコットランド旅行では、エディンバラ城など景色が綺麗な場所にたくさん行って、写真を撮った。他に思い出として残っているのは、タイ人のクラスメートと仲良くなれたことだ。ひとり、ずっと班が同じだった子がいて、その子ととても仲良くなった。一緒に買い物をしたり、ご飯を食べたり、帰るパーティーではアクセサリをプレゼントしてくれた。バスに乗る前、お別れするときはお互いボロボロ泣いてお別れした。イギリスでの留学はとても不安だったが、こんなにも仲良くなれる外国のお友達ができることは思っていなかったもので、コミュニティが広がるという点でも良い留学だった。

◇ 日本でしておけば良かったこと

イギリスに渡航してから後悔したのは、やはりもっと英語の勉強をしておくべきだったと思ったことだ。私は 4 技能の中で一番スピーキングが苦手なので、日本でもっと話す練習をしておくべきだった。横市にはコミュニケーションアワーという英語でお話する機会があるが、それをもっと活用すれば良かったと思う。もちろん話すことだけでなく、語彙の幅を広げることや、文法を正すことも留学前の勉強としてやっておけば、留学でもっと自分の言いたいことを言えたり、言いたい意味を正しく伝えたりすることができたのではないかと思う。

☆ 留学で気づいたこと

実際に外国に行って現地の人と話して感じたのは、流暢に会話できなくても、自分の知る限りの単語と文法で、自分が会話することを諦めないで話せば話は伝わるということだ。発音が悪かったとしても、文法がめちゃくちゃだったとしても根気強さがあれば相手もそれに乗ってくれて、ちゃんと理解しようと向き合ってくれるのだ。完璧に話さなくてはいけないと思いついていたが、自分から積極的に話しかけ、自分に話したいという意欲があれば、人とのコミュニケーションなのでどうにでもなるのだと分かった。

☆ 自分の中の変化

留学をしたことによって自分に自信がついた。拙い私の英語でも会話をすることができたこと、家族から離れての生活で自立の一步が歩めたということが自信に繋がった。また、日本を好きでいてくれる外国の方が多いことから、日本人であることを誇りに思えるようになった。人生で忘れることのない2ヶ月間だった。勇気を出して行って良かったと思う。

コース	B コース
プログラム	ド・モントフォート大学 Pre-sessional English courses
渡航国	イギリス
渡航期間	8 週間
所属学部	国際教養学部

2 か月間という短期間での留学でしたが、たくさんの学びを得ることが出来た留学だったと思います。

学習面では、様々な国からの留学生とのグループワークを通して、自国の状況のある程度把握して他国に人に伝えられるようになっておくべきだということ、尋ねられるのを待つのではなく前のめりの姿勢で議論に参加すべきということ、を学びました。授業において取り上げられていた内容が SDGs についてであり、自国の現状や取り組みについて尋ねられることが多々ありました。その際に、英語で伝えられるかどうか以前に「よく知らない」ということがあり、他の国のクラスメイトが自信をもって答えていた様子からも、自国がどんな状況にあるのか興味関心を持つことの大切さは強く実感しました。また、たとえ自分の英語に自信がなくても、どうにかして意見を伝えなければならない環境下に身を置いたことで、より実践的な英語力を身に付けることが出来たように感じます。

生活面では、生活必需品を買い集めることから、休日の旅行まで、一緒に渡航した仲間と協力してやり遂げたことで、「どんな環境下でも何とか生きていける」という自信につながりました。一方で、自分より英語力が高い仲間に頼ってしまった部分も多くあったため、もっと英語力を伸ばしたい、という気持ちが強くなりました。「もっと英語が話せたら」と悔しい思いをした経験をバネにこれから努力していきたいです。関連して、言語が通じることの暮らしやすさも実感したため、日本においてはもっと精力的に行動したい、と思えるようになりました。

異なる文化の中に身を置いて、イギリスの良さ・日本の良さの両方に気づくことが出来ました。店員さんをはじめとした待ちゆく人の温かさ・オープンマインドな姿勢、暑すぎず寒すぎない、湿度の低い気候などの点が、イギリスの良い点だなと感じます。一方で、食、路上におけるゴミの少なさ、公共施設を使う際のマナーなどの点は、日本の方が優れていると個人的に感じます。日本の良さを再認識したことで、日本で資金を溜めつつ英語力を向上、日本での生活を堪能し尽くした後に、海外移住が出来たらいいな、という将来設計が出来ました。

キリスト教徒の集会に参加する機会があったのですが、今まで「宗教」と接点を持つ機会が少なかったこともあり、刺激的な経験でした。この機会だけでなく、クラスメイトの中にも何かしらの信仰をもつ人が複数人おり、宗教の奥深さや、今まで宗教に対して持っていた漠然として「怖い」という偏見にも似た感覚が、実際に信仰する人とかかわったことで薄くなったように感じます。自分は心理学を専攻しているのですが、今回得た経験をきっかけに研究対象の候補として視野に入れていきます。

私は3年生の7月から9月という、同年代の友人が日本でインターンに参加し始めている中での留学でした。日本での友人の現状を知って焦りが募り、留学を後悔することもありました。しかし、留学をしていなければなかった経験・仲間が出来て、価値観、人生設計に大きな影響が及ぼされた2か月であり、プログラムが終了した今「留学をしてよかった」と心から思えます。